

「年の差婚」の希望と現実

未婚化・少子化社会データ検証：データが示す「年の差」希望の叶い方



生活研究部 研究員 天野 馨南子
amano@nli-research.co.jp



あまの・かなこ
95年東京大学経済学部卒業、
日本生命保険相互会社入社、99年ニッセイ基礎研究所。
内閣府「地域少子化対策重点推進交付金」事業選定審査員（2017）
など、政府・民間の少子化対策関連委員に多数就任。

1——はじめに

昨今、年の差婚についてはメディア等様々に取り上げられているところである。そこで本稿では、国の大規模データ分析により、日本における未婚者の「年の差婚希望」ならびにその希望の「叶い方」を俯瞰する。少々驚きの結果となったので、ご紹介したい。

2——未婚男女の年齢差ターゲットは？

2015年に行われた国の調査データでは、5人に1人以上(23%)の未婚男性が5歳以上年下女性との結婚を希望している[図表1]。ただし、同年齢から2歳年下までのほぼ同年齢婚希望の未婚男性が最も多く、約6割に達する。年上女性希望が最も少ない(6.7%)。

[図表1] 未婚男女の希望する「結婚相手との年齢差」ランキング

資料：国立社会保障・人口問題研究所(2015)「第15回出生動向基本調査(独身者調査)」より筆者作成

女性の希望			男性の希望		
男性との年齢差	割合	累計割合	女性との年齢差	割合	累計割合
1位 1-2歳年上	29.6	29.6	1位 おなじ歳	41.8	41.8
2位 おなじ歳	28.4	58.0	2位 1-2歳年下	14.9	56.7
3位 3-4歳年上	20.6	78.6	3位 5-6歳年下	14.5	71.2
4位 5-6歳年上	12.0	90.6	4位 3-4歳年下	12.0	83.2
5位 7歳以上年上	5.6		5位 7歳以上年下	8.5	
6位 年下	3.9		6位 年上	6.7	

次に、男性の年の差婚希望はさておき、女性も同様のライフデザインをしていなければ叶う可能性は限りなく低くなる。女性側の希望を見てみたい。図表1では約6割の女性が同年齢から2歳年上までを希望している。男女とも約6割が同年齢ゾーン希望であり、希望割合がマッチングしているといえる。

ただ、女性の約8割が同年齢から4歳上までの近い年齢の年上男性を希望している一方で、同年齢から4歳年下までの女性を希望している男性は約7割にとどまり、5歳以上年下女性を希望する男性割合がそれにあう希望をもつ女性の割合よりも

高くなっている。つまり、男性が若い女性を希望することによる女性との希望ミスマッチがみとれる。

データからは男性が4歳年下女性までの結婚を希望するならば約8割の女性の希望と合致しマッチング可能性が非常に高くなる(女性の場合は6歳上までの男性希望すればマッチング可能性が非常に高くなる)と指摘できる。

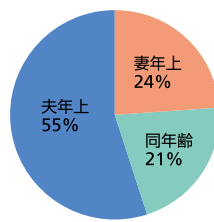
3——成婚カップルの年齢差の現実とは？

希望はさておき「実際出会ってみなければわからない」という議論は当然ありうる。年齢差だけで決められるほど現実の結婚は安易なものではないはずである。そこで、2015年に成婚したばかりの初婚カップルの実際の年齢差のデータを見ることにしてみよう。

[図表2] 2015年に婚姻届を提出した初婚夫婦の年齢差状況(%)

資料：厚生労働省「平成27年 人口動態調査」より筆者作成

歳の差	割合
1位 男女同年齢	21.0
2位 夫が1歳年上	13.5
3位 夫が7歳以上年上	11.4
3位 妻が1歳年上	9.6
4位 夫が2歳年上	9.1
5位 夫が3歳年上	7.2
6位 妻が4歳以上年上	6.5
7位 夫が4歳年上	5.7
8位 妻が2歳年上	4.7
9位 夫が5歳年上	4.5



図表2から、以下の結果が判明した。
○男性が年上パターンで、1歳上から4歳上までの結婚は57%。希望と現実との乖離が割合的にはほぼ見られない。
○男性が7歳以上年上婚は11%で男性の希望をやや上回る。
○男女とも1割を切る少数派希望の年上妻婚が現実では24%に達しており、希望と現実との間に顕著な乖離が生じた。

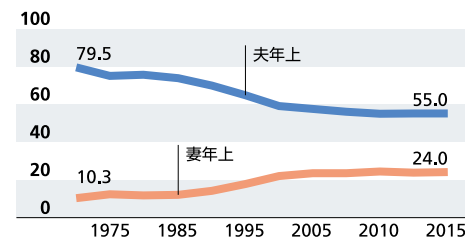
2015年における年上妻の「姉さん妻婚」は実に女性の希望の約6倍、男性の希望の約4倍にものぼり、希望から照らしてみるとあまりにも意外な「年の差婚」の実態が現れた。

4——4組に1組が「姉さん妻」時代

最後に初婚夫婦の年の差の長期推移を示してみたい[図表3]。45年間で夫が年上の伝統的パターンは約8割から約6割へと大きく減少。一方、年上妻婚が増加した。2015年では約4組に1組が姉さん妻婚となっている。

[図表3] 婚姻届を提出した初婚夫婦の年齢差45年間の推移

資料：厚生労働省「平成27年 人口動態調査」より筆者作成



現実には「出会ってみなければわからない」は極めて正しい議論であることを示している。ただ、近年では、希望との乖離の方向性が「年上女性・年下男性がよい」という姉さん妻婚傾向となるようである。1歳年上の「金のわらじ婚」パターンが最も多く、全体の約1割を占める。次に多いパターンは妻が4歳以上年上である。ドラマ「逃げ恥」の百合と涼太カップルではないが、想像よりも年の差のある姉さん妻婚が成立している様子がうかがえる。

データが示す現実とは、年上夫という伝統的結婚の急激な減少と姉さん妻婚の増加という、一般のやや想像を超えると思われるトレンドとなった。